

成人・老年看護学実習

目的

成人・老年期の周術期・回復期・慢性期・終末期にある対象とその家族の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、対象に必要な看護を実践するための基礎的能力を養う。

目標

- 1 対象の身体的、心理的、社会的特徴を理解する。
- 2 対象の健康レベルの経過に応じた看護を実践できる。
- 3 対象や家族に関心を持ちかわることができる。
- 4 対象に必要な継続看護や多職種連携の必要性を理解できる。
- 5 専門職として倫理観を持ち、責任ある行動がとれる。
- 6 学習の学びと自己の課題を明確にできる。

成人・老年看護学実習Ⅰ

〔2単位 90時間〕

目的

周術期にある対象とその家族を理解し、生体反応や手術侵襲からの回復促進を促し、対象の変化に応じて看護実践できる基礎的能力を養う。

目標

- 1 疾病の経過や対象の生活、健康障害と手術・治療に伴う身体的状態や生活機能を情報収集できる。
- 2 対象の手術前・手術後のフィジカルアセスメントができる。
- 3 対象の状態や反応の意味を、心理的变化や社会的役割への影響とあわせて理解できる。
- 4 対象の治療前後の生活、健康状態、機能変化に応じた看護を実践できる。
- 5 身体の形態や機能の変化が退院後の生活に及ぼす影響と必要な社会資源について考え、継続看護の必要性を理解できる。
- 6 対象と家族を尊重した態度で接することができる。
- 7 実践した看護を考察し、次の援助につなげることができる。
- 8 専門職業人としての倫理観をもち、責任ある行動がとれる。
- 9 実習での学びと自己の課題が明確にできる。

実習時期及び期間

2～3年次 12日間

成人・老年看護学実習Ⅱ・Ⅲ

各〔2単位 90 時間〕

目的

回復期・慢性期にある対象とその家族を理解し、対象が健康状態を維持・改善しその人の生活と折り合いをつけながら健康障害とともに生きていくことを支える看護実践ができる基礎的能力を養う。又、終末期にある対象とその家族を理解し、対象の苦痛を予防・軽減し、QOLを維持するための看護実践ができる基礎的能力を養う。

目標

- 1 対象の治療の経過や健康障害に伴う身体的状態、生活機能や能力の変化を情報収集できる。
- 2 対象の健康状態を治療の経過に応じたフィジカルアセスメントができる。
- 3 対象の健康状態や反応の意味を心理的变化や社会的役割への影響とあわせて理解できる。
- 4 対象の健康状態に応じた看護を実践できる。

回復期：

- 1) 対象の体力の回復の促進および合併症や二次的障害を予防する看護を理解できる。
- 2) 対象の生活行動の自立に向けた援助を理解できる。
- 3) 対象の障害の受容過程への支援を理解できる。
- 4) 対象の社会復帰および生活の再構築にむけた支援を理解できる。

慢性期：

- 1) 対象の健康上の課題を把握し、再発予防や身体機能の維持・改善を目指した看護を理解できる。
- 2) 対象の健康の回復過程を促進し、セルフマネジメント・セルフケア獲得にむけた支援が理解できる。
- 3) 対象のアドヒアランスを高め、疾病や症状の自己管理にむけた環境の調整を理解できる。
- 4) 対象の自己効力感を高め、自尊心低下を防ぐ看護を理解できる。

終末期：

- 1) 対象の健康障害による症状や苦痛の緩和にむけた援助を理解できる。
- 2) 対象の意志決定への支援を理解できる。
- 3) 対象のQOLを高める援助が理解できる。
- 4) 対象と家族の心情への配慮および最期までよりよく生きるための支援を理解できる。
- 5 身体の形態・機能や心理・社会的側面の変化が今後の生活に及ぼす影響と必要な社会資源について考え、継続看護と多職種連携の必要性を理解できる。
- 6 対象と家族を尊重した態度で接することができる。

- 7 実践した看護を考察し、次の援助につなげることができる。
- 8 専門職業人としての倫理観を持ち、責任ある行動がとれる。
- 9 実習での学びと自己の課題が明確にできる。

実習時期及び期間

2～3年次 12日間